

営農ウィークリーNEWS

大原野事業センターにて 水稻播種作業が始まりました！

4月10日、大原野事業センターは、2019年作付用水稲苗の播種作業を開始しました。

毎年、早生品種「コシヒカリ」より作業が開始、され植付時期に合わせて中生、晩生品種など5月中旬まで続きます。

近年の温暖化による品質低下を防止する対策として播種期を遅らし、登熟期に高温が回避できるように工夫しています。



★ 健苗育成には！ ★

作業	内容
1) 塩水選	充実した籾を選ぶ。
2) 種子消毒	ばか苗病、いもち病、ごま葉枯れ病を対象として種子消毒を行う。
3) 浸種・催芽	10～15℃で約1週間十分に吸水させる。3～4日で1回目の水替えを行い、以後1～2回、水を替える。積算温度100℃（10℃で10日、15℃で7日程度）で、籾が透き通ったあめ色になり、ハト胸状態になる。
4) 播種	育苗箱に育苗土を詰め、稚苗（3葉程度）の場合は乾籾で1箱150～180g、中苗（4.5葉程度）で80～100gを播種し覆土、灌水する。
5) 出芽期	第1葉（不完全葉）が出そろそろ頃まで加温器に入れる。30℃で約2日間。
6) 緑化期	出芽した苗箱を弱光で25℃前後で第2葉が出て展開するまで光に慣らしていく。温度が低い場合は被覆資材で保温を行う。
7) 硬化期	緑化した苗箱をビニールハウスや、トンネル内に並べ徐々に自然に慣らしていくのが硬化作業である。徒長苗や軟弱苗防止のため、30℃を越さないように管理する。低めの温度管理のほうが障害が出にくい。

—TAC information—

タケノコ不振…ぞーなる!!



今年のタケノコですが、思った以上に出荷量が伸び悩んでいます。

昨年の台風、4月の低温などの不安定な天候の影響が大きく出ているのではと思います。

本来なら、最盛期を迎えるところですが…出てこい！タケノコ！

塩水選と種子消毒

1 塩水選

1) 食塩水で塩水選を行う。

	比重	水 (ℓ)	食塩の量 (kg)
うるち	1.13	10	2.0
もち	1.08	10	1.2

2) 塩水選後は水洗いを行う。

2 種子消毒

1) 消毒液の作成

イネシガラセンチュウと同時防除をする場合は、殺菌剤の希釈水量にスミチオン乳剤を1000倍になるよう混用液をつくり浸漬する。

※殺菌剤テクリードCとの混用液の作り方 (例) [種もみと同容量以上の水量 (1:1以上) にする]

種もみ	水量	殺菌剤		殺虫剤
		テクリードC	倍率	スミチオン乳剤
3kg(6ℓ)の場合	6ℓ	30cc	200	6ccを左の200倍液に加え1000倍とする。
5kg(10ℓ)の場合	10ℓ	50cc	200	10ccを左の200倍液に加え1000倍とする。

2) 浸漬 (24時間)

消毒液は10~15℃の範囲で行う。

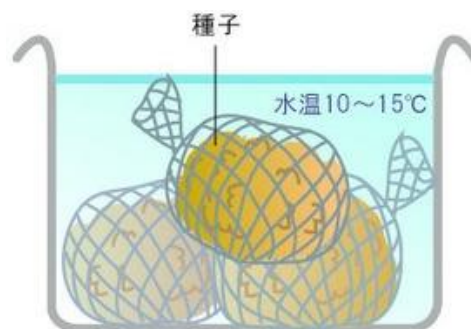
種もみは網目の袋に入れ、浸漬中に1~2回上下入れ替えを行い、よく攪拌を行う。

※消毒液は、5回程度は連続して使用ができる。

3) 消毒液の水切り

もみを取り出し、自然落水で水切りを行う。

4) 風乾処理はしなくてもよい。



(図 みんなの農業広場より)

3 種子の浸漬 (芽出し)

1) 消毒した種もみを種もみの量の2倍程度の水に浸漬する。3~4日目で水を1度交換する。

2) 15℃で7日程度、20℃で5日程度でハト胸状態となる。

幼芽が1ミリ以内で播種を行う。



(図 みんなの農業広場より)